

Respice Stellam, Voca Mariam !



小鳩会通信

～私たちのしていることは大海の一滴にすぎないと感じています。

けれど、もしその一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。～マザー・テレサ

創立 125 周年記念講演会

「苦難を超えて—義肢製作を通して見つめるいまのルワンダ」

7 月 10 日 (月), ガテラ・ルダシングワ・エマニュエルさんとルダシングワ真美さんをお招きして創立 125 周年記念講演会を実施しました。お二人はルワンダで 1994 年に起きた内戦で手足を失った人々に義肢をつくり、無償で提供するという活動をされています。

他者のためにどんなことができるのか考え、実践されている活動に私たち小鳩会も献金でサポートしてきました。小鳩会の献金が実際にどのように使われているのかを知る貴重なお話でした。講演後は希望者の集まる交流会が行われ、質問する生徒の挙手が途切れることなく、熱のこもった交流会をおこなうことができました。



こども食堂ボランティア

3月25日(土)と、7月21日(土)若王寺こども食堂のボランティアに行ってきました。ボランティアに参加した生徒の皆さんの感想をご紹介します。

高校三年 門屋颯真

僕は、ボランティア活動をしたのは、去年カナダに留学をした時にゴミ拾いをしたのと、学校の献金のボランティアだけでした。今回、子ども食堂というボランティアがあって、経験しておこうと思い参加しました。このボランティアでは小さい子とミニゲームなどをしました。僕には小学生ぐらいの従兄弟がいてよく遊ぶので小さい子と遊ぶのは苦にもならず、相手の子も楽しそうでよかったですと思いました。こういうのもボランティアになるんだと僕自身も社会に貢献することが出来て嬉しく思いました。また機会があれば社会に貢献出来たらいいなと思いました。

高校Ⅲ年 前田智則

今回、今まで行きたいと思っていた小嶋会のボランティア活動で子ども食堂に行かせてもらえることになって、非常に楽しみにしていました。前々から行きたいと思っていましたが、コロナの影響でしばらく機会がありませんでした。将来、子どもの発達に関係する仕事をしたいと思っていて、やっとこのような機会に恵まれました。子ども食堂ではスーパーボールすくいでスタンプを押してあげたり、スーパーボールをあげて喜ばせたりと、とてもやりがいのある活動でした。また、子どもを楽しませるようなボランティアの機会があれば是非参加したいと思いました。

高校Ⅱ年 堀田才雅

初めは、子供たちを喜ばせたいという気持ちで参加しようと思いました、しかしボランティアに参加した時に、子供たちとうまく接することができるのかと色々と緊張しました。しかし、こういった活動はやることにこそ意義があると思い参加しました。こういった活動に参加する機会が少なかったため、初めこそは緊張しましたが、行っているうちに子供たちが笑顔になっているのを見て、「よかった、嬉しい。」と感じました。もし、今後もこういった活動に参加できる機会があれば積極的に参加していきたいです。



高校Ⅲ年 大石元輝

私は今高3ですが、初めてボランティア活動でマジックを披露しました。明星高校入学時、コロナ禍でマジック同好会での活躍も学園祭の他にいま2年半が経ちましたが、このような経験ができて本当によかったです。子供たちも私達マジック同好会が見せる手品を楽しんでもらっていたのでとてもうれしく思いましたし、自分にとっても良い経験になりました。また機会があれば参加したいと思います。

高校Ⅱ年 奥川優大

ボランティア活動と聞く時、つらくて、しんどいようなイメージがありますが、今回はとても楽しかったです。小さな子供達の笑顔を見ることもできたり、食堂の方々ともコミュニケーションを取れたり、普段では関わることのないような人々と交流することができてとても良い経験ができました。面識のない人と関わる機会はほとんどなくなってしまいましたが、改めて人と出会う楽しさを感じました。また機会があれば参加したいです。

高校Ⅱ年 北川清啓

ぼくは今回、子ども食堂に参加するのは2回目なんですけど、縁日のイベントをするのははじめてでした。子ども食堂の縁日ではくじ引きや輪投げ、マジックなどがあり、ぼくはさいころゲームの運営をさせてもらいました。さいころを子供たちに投げてもらうゲームなのですが、子供とふれあう事が多く、子供たちから多くの笑顔をもらいこちらも笑顔になりました。また別の縁日を担当している先輩や後輩、友達との交流もあり、子ども食堂を楽しくお手伝いできたかなと思います。今後も子ども食堂に行ける機会があるならば是非参加したいと思います。

高校Ⅱ年 堀田才雅

私はこの活動に参加するのは2回目で、また子供たちのために頑張りたいと思い参加しました。2回目といってもどう接すれば喜んでくれるかなど色々と悩みました。しかし、こういった活動はやることにこそ意義があると思い参加しました。今回は別の仕事で挑戦してみましたが、子供達も祭りを楽しんでいる様子だったので、私はそういった様子を見てとても安心しました。子供たちが笑顔でいたことでやりがいを感じることができました。このような人を喜ばせることがとても大事であることを忘れずに活動していきたいです。

高校1年 大森悠翔

僕は以前から小鳩会だよりにより、子ども食堂の活動に興味がありました。そして今回初めてワクワクしながら参加しました。当日は明星縁日の催しであるスーパーボールすくいのお手伝いをしました。僕は普段、子ども達と関わる機会がないこともあり、最初は少し緊張しましたが、子どもたちの方から話しかけてくれたり、また時間が経つにつれ、次第にリラックスし楽しく接することが出来ました。その中で、子どもたちがスーパーボールをすくえた瞬間の嬉しそうな笑顔、また、たくさんすくってお父さんお母さんに自慢している時の笑顔を見て、僕まで嬉しく幸せな気持ちになりました。そして今回お手伝いに参加させていただき良かったと思いました。また子どもたちの笑顔に触れたいので、来年以降も子ども食堂のお手伝いに参加したいと思います。貴重な体験をすることができたこのような機会を設けていただきみなさんに感謝したいです。

中学1年 岸本達樹

はじめはマジック同好会で子ども食堂に行くのが部長だけで先生があと2,3人行って欲しいと言っていたので僕はそのまま「子ども食堂に行くつもりにしています」と言ってしまう、また中学生で行くのは僕だけだったので行くことに躊躇を感じていましたが、結果的に楽しかったです。マジックはたまに失敗もしてしまいましたが、その失敗した時の相手への接し方を学べてよかったです。また、マジックが成功した時に驚いてもらえることや拍手してもらえることも楽しかったです。また機会があれば是非参加したいです。



◆今回の献金期間と献金先◆ 10月3日(火)～10月13日(金)

- モロッコ地震災害救援金(日本赤十字社)
- 秋田県の豪雨で被災したカトリック学校(日本カトリック学校連合会)
- こどもの里(大阪市西成区)
- 児童養護施設京都聖嬰会

小鳩会委員は、担任の先生と相談して、献金期間のうち都合のよい機会を活用してクラス献金をお願いします。

小鳩会活動は、お金を集めるだけが目的ではなくて、お小遣いでのおやつをひかえて他の人に差し上げる気持ちで献金する、自分の時間を手伝いのために使う、電車の席を譲る…など、自分を差し出して、支えあい、お互いの気持ちが豊かになることに活動の意義があります。日常を小鳩会活動にしてゆきましょう。

保護者会募金活動



9月15日(金)保護者会時に小鳩会の募金活動を行いました。まだまだ暑さが厳しい中でしたが、大きな声を出してお願いしました。保護者の方々も、応えてくださいました。ご協力に心から感謝いたします。今回の献金は秋田県の豪雨災害で被災したカトリック学校を支援させていただきます。3学期にも募金活動を行います。ボランティアを募集しますので、皆様ご協力よろしく申し上げます。

題字が新しくなりました

小鳩会通信

「このたびは、とても大切な仕事を任せていただいたことを大変光栄に思います。未熟な私には恐れ多い仕事でしたが、精一杯、書かせていただきました。前号までの卒業された先輩の作品を惜しむ声もあると思いますが、新しい題字にも少しずつ馴染んでいただけると幸いです。」

高校Ⅱ年 那須 健 (書道部)